東海大学機友会々報

第二回総会開催さる

新役員決定・会則一部改正

東海大学機友会第二回総会が去る昭和五十九年三月三十一日、東海大学代々木校舎に於いて、盛大に開催された。機友会は昭和五十六年十一月十四日の設立日から約二年四カ月を経過し、役員改選や会計報告の時期を迎えていた。役員の任期は会則の三年に満たないが、第一期は三年目の年度末で切られていた。

当日は多くの企業でも年度末のため会員の出足が心配されたが、総勢約百名の出席者があり、総会およびその記念行事として行われた特別講演会と懇親会も大盛況であった。

総会の前に第三回代議員会が開かれ、機友会会則に則って新役員の選出が行われた。その結果、第一期の会長、副会長、幹事および代議員は、本会の活動が今やっと軌道に乗りつつあり重要な時期だとして、いずれも留任することになった。さらに、副会長に大原順夫氏（43年度卒）、会計に伊藤昌夫氏（40年度卒）が新たに選出された。また、監査は留任となった。

このように新役員が揃った所で、いよいよ総会が定刻に始められた。開会宣言に続いて会長挨拶、生友会および精密機械同窓会の代表による来賓祝辞が行われた後、議長団が選出され、出席者四十二名、委任状約四百通の下に議事に入った。

議事の第一項は第一期活動報告である。河西副会長より、設立以来、四回の幹事会と三回の代議員会を開き、主に機友会の確立とそのために為すべき活動について話し合い、実行して来たとして、各幹事会および代議員会における議事の内容とそれに基づく具体的な活動状況が報告された。その主な活動として、既卒者および新卒者への本会の宣伝と会費の徴収、会報二報の発行と郵送、会員名簿作成のための準備、本会に貢献した新卒者への機友会賞授与、会員のための就職相談窓口と技術相談窓口の設置、学生員のための学内支部の設置などが挙げられる。

次に、議事の第二項は会計報告である。昭和五十六年十一月十五日から昭和五十九年一月三十一日までの会計報告が、山本財務担当幹事よりなされた。これに対し、監査の鈴木氏より、監査の結果相違のないことが報告された。尚、昭和五十九年二月以降の会計報告は整理中につき、会報によって行うとの補足があった。これらの報告に対し、二・三質問がなされたが、説明の結果了承された。

議事最後の第三項は会則の一部改正についてである。第四回幹事会に於いて、総会に提案することになった会則の改正箇所が円能寺総務担当幹事より説明され、討論された。一つは第一条の事務局を代々木校舎から湘南校舎へ移すことであり、これは工学部新館の建設に伴い、学科の事務室が湘南校舎に移設されるためとの説明があり、決議された。もう一つの改正箇所は第十七条の会費についてである。正会員の一年会費は事務処理が煩雑であり、また二年目以降にはほとんど納入されないため廃止し、新たに学生会員の会費を在学中二千円と定めたい旨、説明された。これに対し、現役の大学院生はどちらの会費に該当するかとの質問があり、会員資格にまで溯って討論された。その結果、大学院生は三学科にまたがって所属しており、統一が困難であるため、第十七条の文面と共に、幹事会で検討することとし、会費変更の主旨だけが決議された。（関連記事第四面）

このように、総会は大いに盛り上った所で無事閉会した。

第2回総会風景

祝辞を述べる小林主任教授

懇親会風景

記念行事に特別講演会と懇親会

総会が終って一息入れた後、記念特別講演会として、現役の卒研生および大学院生による研究発表が行われた。これは卒研発表を懐しむ同窓生からのたっての希望が取り入れられたもので、学科の協力を得て、最近の新しい研究が採択された。

講演題目は次の通り。

一、マイクロシンによる回転自由振動系の変位計測に関する研究
　小野　純（大学院修士課程）

二、移動型知能ロボットに関する研究
　中島洋一郎・石野圭二（動機四年）

三、空洞形消音器内の流れの可視化
　森山裕幸（大学院修士課程）

四、副室付燃焼機関の温度線図による燃焼解析
　柳　漢呉（大学院博士課程）

講演に当っては、立派な前刷集が配布され、いずれもスライドや映写機を使っての本格的な研究発表であった。同窓生達は自分の卒研発表を懐しむように、熱心に聴き入っており、終了後には好評の会話があちこちに聞かれた。

総会最後の記念行事は待望の懇親会である。動力機械および第二工機械工学科の先生方やすでにご退職の先生方を招いての懇親会は、総会には出席できなかった同窓生も多数出席し、盛大であった。会長挨拶や来賓祝辞に次いで行われた先生方の紹介の時には、久し振りに恩師を見て学生時代を思い出しているかのように、同窓生達は惜しみない拍手で敬意を表していた。そして乾杯の後には先生方をはじめ、先輩、後輩および同輩と酒を交わしながら語り合う声で会場は割れんばかりに賑わい、二時間半の懇親会では話が尽きぬと言った感じで閉会の時間を迎えた。

このように、実質的には初の第二回総会は和やかな雰囲気のうちに無事終了し、大成功をおさめた。

東海大学機友会事務局
代々木校舎　動機事務室
〒151　東京都渋谷区富ヶ谷 2－28－4
☎　03(467)2211(内) 381
湘南校舎　動機事務室
〒259-12　神奈川県平塚市北金目1117
☎　0463(58)1211(内)3466
印刷　信友印刷株式会社
☎　03(444)2481(代)

学内通信

新主任教授、新副主任教授および新任の先生紹介

新主任教授

昭和五十九年四月より、動力機械工学科および第二工学部機械工学科の主任教授に、小林学教授が就任されました。

小林主任教授談

「待望の新館建設も始まり、教職員一同教育に、また研究に非常に張り切っております。機械系学科も年々質的に充実してきておりますが、今後も卒業生諸兄と手を取り合って益々発展させていきたいと思っております。皆様のより一層のご支援をお願い致します。」

小林主任教授略歴

昭和二十八年茨城大学工学部原動工学科卒、工学博士、日本国有鉄道、同鉄道技術研究所を経て昭和五十五年四月より東海大学に勤務、専門は内燃機関および自動車工学。

新副主任教授

同じく昭和五十九年四月より、田中英穂教授が動力機械工学科の教授として着任されるとともに副主任教授に就任されました。

田中副主任教授略歴

昭和二十六年東京大学大学院第一工学部機械工学科修了、工学博士、工業技術院機械試験所主任研究員、東京大学宇宙航空研究所および同工学部教授を経て昭和五十九年四月より東海大学に勤務、専門は内燃機関およびガスタービンの内部流体力学。

新任教授

動力機械工学科の教授として、栗山良員先生および中川三男先生が着任されました。

栗山良員教授略歴

昭和二十一年大阪大学工学部冶金学科卒、工学博士、大阪大学工学部助教授、石川島播磨重工業株式会社溶接研究所長を経て昭和五十八年四月より東海大学に勤務、専門は溶接工学。

中川三男教授略歴

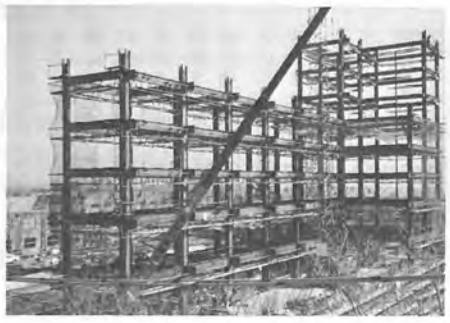
昭和二十四年東京大学工学部精密工学科卒、工学博士、日本電信電話公社電気通信研究所を経て昭和五十九年四月より東海大学に勤務、専門は高速機構の制御。

“若い力„ を求めます!!
躍進するレグセルは会社を創造しています。各部門（技術、設計、企画、業務、製造、営業、総務、経理etc）で若い責任者が育っています。
Legsel レグセル工業株式会社
資本金 4,000万円　代表取締役　河西正彦（昭和41年度機械卒）
製造品目
機械関係：産業用ロボットマシン、各種省力機械及び装置
金型関係：トラスファープレス型、順送プレス型、特殊省力型
金属関係：放電加工用タングステン系合金、強電用電気接点
本部 相模原営業所　〒228 神奈川県相模原市東林間6－20－15　☎0427(45)6485(代)　FAX 0427(42)5120
埼玉営業所　〒330 埼玉県大宮市宮原4－1－9　☎0486(67)4045(代)　FAX 0486(67)0864
藤沢工場　〒252 神奈川県綾瀬市上土棚701　☎0467(77)0371(代)　FAX 0467(76)7854
（当社は東海大学卒業生で設立された会社です）

建設進む工学部新館

61年７月完成に向けて工事急ピッチ!!

実験６棟より全景写真 10/22



工学部の新館である湘南校舎十二号館の建設が着々と進んでいる。旧三、四、七棟はすっかり取り壊され、その跡地において、前号で紹介した完成図の半分に相当する北側の部分の工事が現在行われている。

すでに地下の機械工場、内燃機関実験室は内装の段階に入っており、三月中には移転が行われることになっている。また、研究室に当てられる十一階の部分も来春にはでき上る予定である。

このような建設過程の工事現場といまはなつかしい旧実験棟の写真をここに掲載し、機械系学科の力強い前進の一端をお伝えする。

【研究室紹介】第二工学部 機械工学科研究室

第二工学部機械工学科は、二つの研究室に、分かれており第一研究室に、井ノ内一雄教授と、畔柳がおり、第二研究室には、丸島俊雄講師と、奥川朋高講師が、おります。

各先生方は、第二工学部機械工学科と、動力機械工学科の授業と、卒業研究を、担当しております。

各先生方の卒研生の数は、第二工学部が、三～五名で、動機の学生数が、五～七名位です。

機械第一研究室では、研究テーマを、学生の希望により分けるので、研究テーマによっては、第二工の学生と、動機の学生との合同研究も、行なわれています。

この合同研究は、当初、昼間部学生と、夜間部学生との人間関係を、心配しましたが、想像以上にお互いの人格を認め合いながら、実験を行ない、良いデーターが、得られました。

又、第二工学部学生の特徴として昼間は、それぞれの職場で働いており、その為、第二工学生の卒論には、一味ちがった内容のものが、できることがあります。

第二工学部機械工学科の卒業生の数は、別表のように、昭和四十三年を、ピークに、四十八年まで、急激に下降し、その後、少数精鋭主義で、五十年代後半までできましたが、五十七年度の入学希望者から、増加してきました。現在（昭和六十年二月）の機械工学科の存籍者数は、一年生、四十九名、二年生三十九名、三年生、二十二名、四年生十七名おります。来年度の入学希望者は、去年十二月の、推薦入学試験の受験者が、三十余人あり、本年二月の一般入学試験時の受験者は、百余名となり、高い競争率となりました。

二年位、前までは、入学希望者が、減り続け、卒業生の方々にも、いろいろと、心配していただきました。お蔭様で、多くの、入学希望者が集まりましたので、少し、御安心下さい。

萩先生が、新入生のガイダンスの時、言われますが、松前総長より『日本一の、第二工学部を作れ』、と言われ、当初、工学部二部として、スタートをした第二工学部機械工学科は、二十年の歴史を、持つようになりました。卒業生の皆様も各方面で、活躍なされ、会社を経営なさる方も、多数おられ、各会社の、役員になっている方も、多数おられます。

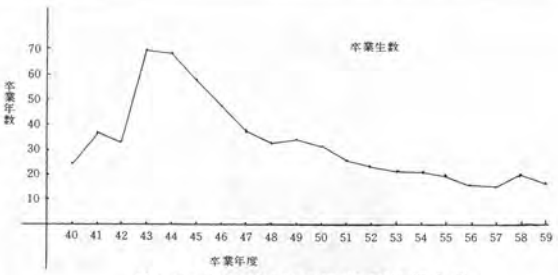
卒業生のこれからの、ますますの御活躍を、期待するとともに、第二工学部機械工学科に対する御支援を、お願いする次第です。

（記畔柳）

井ノ内研究室

第二工学部　卒業研究題目一覧表

研究室名	題　　目
井ノ内・畔柳研	内燃機関におけるアルコール燃料 玉鋼の研究
萩・村上研	テーパ管付空洞形消音器の流れの 可視化
康井研	可変断面梁の大たわみに関する研究
飯島研	マイコンによる機械制御
青木研	ジェットポンプによる固体粒子の 水力輸送に関する研究
丸島研	暮らしの金属学 ―土木資材における鉄鋼材料―
奥川研	穴加工の研究 ―鋼におけるドリル寿命について―

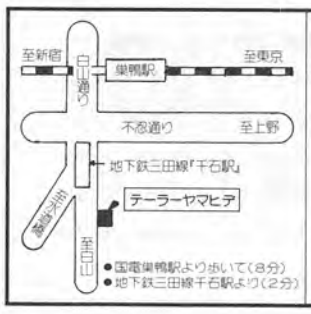


第二工学部機械工学科の卒業生数

高本助教授に工学博士の学位授与

動力機械工学科助教授で本会会員の高本慶二氏が工学博士の学位を取得され、その授与式が昨年三月、五八年度卒業式において行われた。

研究題目は「開放火炎の燃焼騒音に関する研究（燃焼ノズル形状および流入気流の燃焼騒音におよぼす影響）」である。



山秀洋服店
☎(03)944-3540
文京区本駒込2-8-3-104 〒113
《紳士註文服》
《イージーオーダー》
●クレジット1回～20回OK
お気軽に電話又はご来店下さい。
《山本秀隆》（39年度卒）

■ 企画　■ 写植
■ 編集　■ 製版
■ デザイン制作　■ 印刷

〒108 東京都港区白金１－７－20
信友印刷株式会社
☎（03)444-2481(代)

FAME
機械・電気 設計者募集
省力化、無人化装置のパイオニア!!
半導体生産設備，Tr・IC・SCR 等の測定
装置および XYZθ 微動装置等の設計製造
フェイム 株式会社
清原秀明（48年度卒）
工場　〒192 東京都八王子市美山町1253
☎ 0426－51－７７８１(代)

卒業生の声

紹介

宮川一光

（第二工機械四十二年度卒
宮川プレス型製作所）

昭和十九年八月。長野県上田市で私は生れた。当時戦争の末期で母親がそ開先で私を出産したのです。私の兄姉は皆東京で生れ私のみが地方であった。やがて一年が過ぎ終戦と同時に東京に戻り麻布の地で生活をする様になり両親と兄姉四人が狭い部屋で暮すことになりました。父は小さい頃から機械職人として教育されていた為に、私が生れていた時には父は独立して工場を経営しておりました。当時から現在にいたっていまだに渋谷から金杉橋にかけて古川が流れて居り東京湾に注がれています。その川沿いに古くから町工場が密集して居り港区の工業の発展の資料にも紹介される程町工場が有り父もその町工場の一つでした。この様な環境の中で育った私は父の仕事が好きで高校大学と機械科の勉強をしたのです。今考えると、どちらかで電子工学を勉強しておればなぁーと考える事も有ります。三十八年四月本学に入学したのです。ここで私は良き友達にめぐり会うことが出来又自分自身少し人間的に成長した様に思います。それは四年間の学生生活に沢山の想い出があるからなのです。当時の第二工学部にはクラブ活動がなく中学高校とクラブ活動をしてきた私にはもの足りなく感じて居りました。そこでクラブ活動の設立運動をして友達とあるクラブを作りました。今考えると出会いというものは不思議なもので萩先生との出会いも私のクラブ活動の部長先生という出会いでした。第二工学部という条件の中でクラブ活動をしていくことは大変なことです。まして上に立つ人にとっては大変というよりも苦労の連続でした。仕事学校クラブ活動と三つをこなしていく立場の人にとってその個人個人の性格がはっきりでるものだと身を通して感じました。その中での友達との御付合や先輩後輩の付合いとして行くなかで良き友達が出来たのもそれがゆえんです。四十二年三月卒業して父の仕事の御手伝いを本格的に取りくみました。父から又職人さんから仕事を教えてもらい仕込まれました。四十八年に結婚しました。これも縁でしょうか妻は私が生れた上田市の商人の二女として生れスポーツ好で学生時代にクラブ活動をしていたとのことで私とも良く話しが合う連となりました。私の結婚後まもなく父が亡なり私が事実上の経営者になってしまったのです。父の基盤を軸にして私も独自に仕事の内容の改革と御得意先の開拓等と手がけ今日ではやっと軌道にのりかけた所でしょうか。私の家族も娘二人の四人家族となり女性上位の中で会社と家庭を守っている現在です。

十四〜五年前の話

関口壮一

（機械工学四十五年度卒
久保田鍛工勤務）

先般、機友会の集まりの為、久々に湘南キャンパスを訪れた。私の通学していた十四〜五年前とは、比較にならぬ程、なにもかも変っているのに驚いている。

私の通学コースは、渋谷から井ノ頭線に乗り、下北沢で急行に乗り換え、鶴巻温泉からバスか、各停に乗り大根から徒歩であった。当時の急行は、停車駅も少なく、新宿を出ると、下北沢ー向ヶ丘遊園ー新原町田ー本厚木ー伊勢原ー鶴巻温泉という順に停車していた。今はこの倍位停車していると思われる。都内から通う学生にとっては、お気の毒である。

現在は、もちろん禁煙であるが、その頃相模大野以遠は、禁煙が解かれたのである。相模大野を出る急行電車は、まるでSLにでも乗ったのかと、錯覚する程、であった。車内には、一個も灰皿がなく、厚木に着く頃には、一面に吸殻が散乱する有様。すると、少し腰の曲ったオバさんが箒とチリ取りを持って「当然」と云った顔でのんびりと掃除をしてゆくのである。車窓の風景も、ただ広々とした田園が広がっているだけだった。

やっとの事で、大根に着く、現在の様に、大手スーパーや銀行などがある訳でなく、駅前に2〜3軒の家があるだけ、酒屋の前には、大きな犬がいつもゴロンとしていて、たまに通る人に愛嬌を振り撒いていた。学校までの道は、2〜3のルートがあったが、いずれも田舎道で、砂利など敷いていない全くの野道であり、毎日がハイキングであった。今はあるかどうか知らないが、バス道路に出る手前に山岳ルートの称す、滑り易いけわしい山道があり、登り切った所に美しい女性の経営する小さな食堂があり、「おゆきさん」と呼ばれた彼女は、皆の憧れの的であった。機械科の研究室では、連日、この美しい経営者をめぐって、争奪戦が展開されたと聞いているが、残念？にも機械科の飯島先生の奥方になられてしまった。とにかくおめでたいことである。

こんな風にして、学校に着いてもスタミナを相当に消耗してしまっているので、授業の方は身が入らず、あまり印象にないが、研究室での生活は、つい先日の事の様に思い出される。

即席ラーメン用の野菜、焼肉用の野菜などは、いつも隣の畑からだまって頂戴したり、実験をサボって研究室の屋上でビアーパーティーをやって、すっかり酔払って屋上から降られなくなったり、ポンコツ車を改造してキャンパス中を乗り廻したり、全くやりたい放題の事をやっていたものである。

現在、仕事に追いまくられる生活からすると、なにもかも自由で、のんびりとした生活であった。外では、丁度この頃が学園粉争のピークであったとは、全く信じられないことである。

卒業式を目前にして

片山　薫

（動機五十九年度卒
大学院進学）

私が大学生活に対する期待と不安を抱き、東海大学工学部動力機械工学科の門を潜ったのは四年前のことでした。大学へ入学した私は初めて親元を離れ、一人暮しをするようになったわけですが、初めは要領を得ず何をするにも失敗の連続で大学生活が始まりました。しかし、月日が経つにつれてその失敗も良き思い出となってくるものであります。現在卒業を目前にして、四年間を振り返ってみれば多くの思い出があります。たとえば、初めての教室で受けた授業、その時の先生方や友人の顔、また三保での新人生研修旅行で先生方や友人と酒を囲いながら夜遅くまで語り合ったこと、さらに卒業研究の発表会でのことなどあげれば限りがありません。このような多くの人達との出会いがあったということが、私の大学生活で得たものの中で一番大切なことではないかと思います。いろいろなことで苦しんだり、悩んだりした時、相談に乗ってくださった先生方や友人に出会えたということは、私にとってどんなに励みになったかわかりません。四年間私が無事過せたのも、このような方々のおかげだと思い、心から感謝しております。私のこれからの人生において、この気持はいつまでも忘れることなく心の片隅にしまっておきたいと思います。私達は、三月末をもちまして東海大学工学部動力機械工学科を卒業し、就職あるいは進学とそれぞれの道を歩み出すわけですが、在学中に得たものを生かし新しい環境のもとで精一杯頑張っていきたいと思います。また、卒業後一人一人がばらばらになるのではなく、四年間にわたって喜怒哀楽を共にしてきた者どうし、より一層の親睦を深めていくべきだと考えます。幸い本学科には、諸先輩方が築いてくださった機友会というものがありますので大いに活用させて頂きたいと思います。そして、この会を通して諸先輩方とも新しい連繋を持ち、共に東海大学工学部動力機械工学科の発展に努めてゆこうではありませんか。私の場合、東海大学大学院へ進学しますが、在学中あるいは修了後においてもこの機友会の発展と、親睦のために少しでも役に立てたらと考えております。

最後になりましたが、私が幹事長に選ばれて開催しました本学科の昭和五十九年度卒業謝恩会の折には、機友会役員の多数の御出席と、さらに温かい御言葉を賜り誠にありがとうございました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。そして、私の大学生活に良き思い出を作ってくれた東海大学工学部動力機械工学科の諸先生、先輩方及び同輩の御健康と御活躍を御祈り致します。

在学生の声

大学に入学して

園部主雄

（五十九年動力機械入学）

エンジンのことについて、勉強したいと思ったので、動力機械科に入学した。大学にはいったらサークル活動をしようと思ったが、今のところは、毎日がいそがしくて、できそうもない。そして大学の勉強についてだが、もう少し楽かと思っていたら、なかなか大変だ。四月から自炊生活をしているが、何でも一人でやるのは大変だ。今はだいぶ慣れた。また勉強の話になるが、入学後のガイダンスの時は少なくとも予習はやってゆこうと決心していたのにいざ授業が始まると予習どころか、提出物も期限の前日にあせってやるという状態である。そして授業がむずかしいので、しっかり勉強しないと留年しそうである。まだそんなに授業回数が多くないので、わからない所をしっかり勉強したい。だから今後は授業の予習をしっかりやり、宿題ができたらなるべくその日のうちにやってしまって、ゆとりを持って勉強したい。今後の生活だが、まず初めに規則正しく生活するということである。生活が不規則になると病気になりやすいからである。もし病気になったら一人生活なので、看病してくれる人はいないし、大学の勉強にもさしさわりが、出てくるからである。そして勉強にさしさわりがないくらいの時間の余裕ができたらサークル活動をしてみたい。勉強ばかりしていても、つまらないし、いろんなことやって人との交流をはかるのもよいことだから。そして夏休みになったらアルバイトもしてみたい。今までそういうことはしたことがないし社会勉強にもなりそうである。それから本もたくさん読みたいと思う。会社に入ってしまうとなかなか、そういう時間は持てないだろうし、大学生活の時間を有意義に使いたいからである。入学してからあっというまに四月が過ぎて五月も中ばになってしまった。この調子でいくと四年間なんかすぐ過ぎてしまいそうだが、悔いのないように勉強をし、有意義な四年間の学生生活を送りたい。

第一回 機友会賞 贈呈される

機友会では昭和五十八年度卒業生より、(1)機械工学の学生としてすぐれた研究や創作活動をした者、(2)積極性があり、クラスやグループ等において指導的役割を果たし、また卒業後も同窓生のまとめ役として活躍してくれると期待される者を対象に機友会賞を贈ることになり、昭和五十八年度は左記の卒業生諸君に賞状と記念品が贈呈されました。

佐藤　上、国崎信喜、平野豊、田代雅彦、金本和喜、国元義司、底　勝彦、小林史昌、小宮裕司、蒔田美明、園田直彦（以上動力機械工学科卒）

今井秀範、林　正順（以上第二工学部機械工学科卒）

あらゆるニーズにお応えする鋭角の頭脳集団!!　（人材募集中）

SOLC 株式会社ソイック

〒150 東京都渋谷区東3丁目15番5号(AYビル)
☎（03）409−7232(代)　代表取締役　大原順夫（昭和43年度卒）

- 情報機器システムの調査研究及び開発受注
- アプリケーションソフトの開発及び運用
- オンラインリアルタイム アプリケーションシステムの設計受託
- 制御システム(電力・計測・データ通信等)の開発
- 各種ミニコン使用システムの開発

就職の動向

昭和四十八年末の第二次オイルショックは一昔前の出来事となった。と言ってもよいほど日本の経済は本格的な回復に向っていると思われる。昭和五十九年のわが国の景気は、経済企画庁が経済成長の見通しを四・一％から五・三％へと大幅に修正したことからも察せられるように、順調に拡大した。そのような経済動向を背景にして、企業の採用計画も軒並み増加に転じた。特に、電気、コンピュータを中心とする先端産業の大量採用が目につく。まず富士通が高専込みで千二百二十人の採用を予定したのを筆頭に、日立製作所（千百三十五人）、日本アイ・ビー・エム（千百人）、日本電気（千百人）などの情報・電子関連企業がズラリと続いた。その採用計画の内容を見ると、松下電器産業が大卒男子採用予定七百七十人の約八十五％にあたる六百五十人を技術系で占めた例が示すように、技術系を大量に採用した。こうした先端産業が高度情報化時代の到来に備えて技術系の人材確保に凌ぎを削る一方、重厚長大型業種や化学会社などが増員に転じているのも今年の特徴であった。その他の業種については、やゝ増員という企業が多かった。

さて、本学の就職内定状況（六十年一月十二日現在）を見てみよう。全学での上場企業内定者数は、六六一名（二六・四％）で過去最高の五十六年（一、四五三名、二〇・四％）を大きく上回って、史上最高を記録した。学部別では、学部平均が二五・六％で、工学部三一・七％（八五九名）、政治経済学部二六・一％（一七七名）、理学部二四・一％（七一名）の順である。その他では、文学部二二八名（一九・一％）、海洋学部一三三名（二〇・八％）というところが主だったところである。工学部の学科別を上位のみ順に掲げると、電気工学科五一・四％（一三二名）、航空宇宙工学科五一・〇％（五一名）、精密機械工学科四九・〇％（四八名）、電子工学科四二・八％（一二四名）、生産機械工学科三八・一％（四五名）、動力機械工学科三六・九％（九三名）、制御工学科三三・三％（三五名）、通信工学科三三・二％（九五名）という結果であった。動力機械工学科の内容詳細については、図1・図2および別掲「卒業生の主な就職先」をご覧頂きたい。

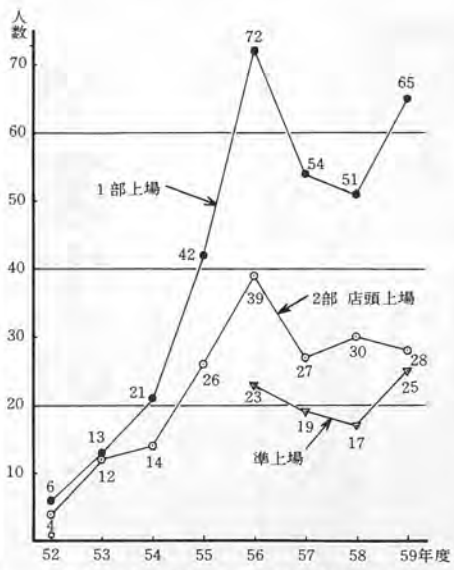


図1　上場企業への就職者数の推移

主な就職先

三菱重工業、石川島播磨重工業、日産自動車、日産車体、東洋ラジェーター、萱場工業、白木金属工業、日本ラジェーター、マツダ、本田技研工業、鈴木自動車工業、富士重工業、厚木自動車部品、自動車部品工業、自動車機器、京浜精機製作所、自動車電機工業、栃木富士産業、富士機工、関東精器、池田物産、アマダ、アイダエンジニアリング、井関農機、椿木チェイン、油研工業、アマノ、シルバー精工、エヌテーエヌ東洋ベアリング、ミネベア、日本気化器製作所、帝国ピストンリング、日立製作所、東芝、オリジン電気、東京電気、沖電気工業、安立電気アイワ、三洋電機、ミツミ電機、東京三洋電機、日本光電工業、スタンレー電気、ファナック、大同信号、フォスター電機、安藤電気、日興電機工業、日本コインコ、協栄産業、昭和電線電纜、北海製罐、東京プレス工業、オリンパス光学工業、大日本スクリーン製造、リコー、三協精機製作所、岡村製作所、東京光学機械、鉄建建設、大豊建設大明電話工業、東京電気工務所、太平電業、日立プラント建設、丸大食品、片倉工業、日本酸素、横浜ゴム、大成ポリマー、日本無機、東京エレクトロン、宇徳運輸、神奈川電気、ダイハツディーゼル、グローリー工業、北澤産業、三ツ葉電機製作所、タムロン、重松製作所、三菱自動車工業、石川島汎用機械、新川、東京シート、日本モレックス、石川島芝浦機械、日本電気ホームエレクトロニクス、萬自動車工業、日信工業、ナイルス部品、東芝精機、岩井機械工業、名古屋技術センター、精機技研工業、日立電子エンジニアリング、日本ビジネスコンピューター、糧友グループ、大井製作所、鳥取三洋電機、ディスコ、加藤車体工業、東芝エンジニアリング

五十九年度 卒研テーマ一覧

今年度の卒業研究の発表会は二月一五日に湘南校舎六号館で行われ、その後、謝恩会を兼ねた恒例の記念パーティが、午後六時より厚木の小杉会館で催された。機友会からも河西、大原両副会長はじめ幹事数名が出席し、後輩の健闘を祝った。

本論文の提出期日は三月一日で、四年生の諸君はいまその仕上げで最後の忙がしい時期を過している。

最近の学科内の研究状況を知っていただくために、今回発表されたテーマのうち、内部卒研について主なものを一覧表にして示した。仕事と関連して興味のあるテーマがあれば、本会が窓口になりますのでぜひご活用下さい。

昭和59年度　動力機械工学科卒業研究題目一覧

分野	指導教員	研究題目
熱工学	萩	空洞形消音器内で発生する気流騒音の研究
	村上	空洞形消音器内の流れの可視化に関する研究
	前田	橋梁における低周波騒音に関する研究
熱機関	小林	自動車の惰行性能
		内燃機関のピストン温度測定法
	田中	任意速度分布を有する管路系の整流と流量測定
	鈴木	狭窄を有する円管内流れにおける乱れ特性
	高本	省燃費内燃機関および車両の研究
流体工学	浅沼	副室付火花点火機関の燃焼特性（副室位置の影響）
	飯島	模型エンジンにおける吸入気流の可視化（火花追跡法とトレーサ法の併用）
	弓野	軸対称衝突噴流に関する研究（傾斜衝突パターンについて）
	円能寺	二次元衝突噴流に関する研究（垂直および傾斜衝突噴流の実験）
材料力学	国本	サンドイッチ構造（波形コア）の衝撃特性に関する実験的研究
	康井	有孔ＦＲＰ板の軸圧縮座屈
	粕谷	積層複合板の軸圧縮およびせん断による座屈特性に関する研究
材料・加工	中城	黄銅における応力腐食割れに関する研究
	栗山	アルミニウム合金等の溶接部硬さと組織に関する研究
	林	一方向凝固鋳物の高温強度に関する研究
機械力学	金田	継手はりの継手部の減衰効果に関する研究
	川上	片持正方形板内に単純支接点を与えた場合の振動について
	竹内	回転軸系の自励振動に関する研究
	藤野	任意節点差分法による平板の面外変形応力解析
制御	中川	３自由度関節を使用したマニピュレータ機構の設計
機械設計	吉川	タワー型太陽熱発電プラントの試設計
	村尾	3ℓ 乗用車用過給ディーゼルエンジン基礎設計
	河東	250cc オートバイ用空冷４サイクルエンジンの過給機の設計
	井ノ内	内燃機関におけるアルコール燃料の実験
	奥川	ダクト内に挿入された各種消音器の圧力損失
	丸島	暮らしの金属学 ― 罐，カン，かん，ＣＡＮ
	佐野	エマルジョン燃料の液滴の燃焼に関する研究

図2　過去３年の就職状況内訳

機友会会則一部改正

第一面の第二回総会（昭和五十九年三月三十一日開催）において、機友会会則のうち、次の三条項が改正された。ただし、ここに記す各条項の文面は仮のものであり、正確な文面は幹事会で検討の上、決定される。

第一章　第一条　本会は東海大学機友会と称し、事務局を東海大学湘南校舎動力機械工学科事務室に置く。

【改正箇所説明】本会事務局を代々木校舎から湘南校舎へ移す。

第六章　第十七条　本会正会員の五年会費は五千円、十年会費は一万円とし、また学生会員の会費は在学中二千円とする。

【改正箇所説明】正会員の一年会費二千円は廃止し、新たに学生会員の会費を二千円と定める。

第九章　第二項　本会則は昭和五十九年三月三十一日に一部改正し、同年四月一日より施行する。

【改正箇所説明】右記二条項の改正により、本会則の施行日を変更する。

❀ 編集後記 ❀

会員の皆さんが待ちに待った（？）第三号をお届けします。

今回は、活字よりも写真・図・表を出来るだけ多くし、年度末でお忙しい方々にも見てもらえるよう編集してみました。

まず見て、次に拾い読みする楽しさ、というわけです。

機友会は、規約で述べてあるように、会報を発行するだけではありません。折りをみて対談『副学長（萩三二先生）を囲んで』ということで考えています。もしこの対談が実現すれば、次号はこの記事が中心になろうかと思われます。

二号で「まだ出発したばかりで……」、という云い訳めいたことは、今回申しませんが、只々会員諸兄のご意見をおよせ下さい。　T・O

各種試験機器模型製作
精密機械機具設計製作
光学機械設計製作
IMAI
今井工業株式会社
〒176　東京都練馬区氷川台３―36―20
電話 03（931）8403

パソコン・周辺機器及びソフトの件は下記へ…
TOKAI
東海教育産業株式会社
代表取締役 鎌田久雄
本社　〒259-11 神奈川県伊勢原市伊勢原3丁目7番2号
電話 0463-92-1881㈹　FAX 0463-94-7402
東京営業所　〒151 東京都渋谷区富ヶ谷2丁目29番9号
電話 03-469-2171㈹　FAX 03-465-3151
営業所　湘南・伊勢原・清水・大阪・九州

排水処理設備設計施工
望星機工株式会社
産業排水処理設備
合併処理設備
上記機器代理店業務
本社　東京都中央区日本橋本町４―８
ヨネズビル３F
☎ 03（662）9448㈹
代表取締役 長谷川 勝（40年度卒）